

8-4-10 砂防・急傾斜専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 砂防・急傾斜専門委員会開催

専門委員会開催回数：10回

4月から翌年1月まで月1回のペースで専門委員会を開催し、技術委員会の報告・連絡、本年度検討項目の審議等を行った。

(2) 活動の目的

近年、気候変動に伴う集中豪雨の増加や地震の頻発等により、土石流・がけ崩れ・地すべり等の土砂災害が全国的に多発し、特に、7月の九州北部豪雨や10月末の台風21号による豪雨災害など、甚大な災害を引き起こされている。平成29年は、1467件（土石流等305件、地すべり165件、がけ崩れ997件 平成29年12月15日現在）の土砂災害が発生し、死者22名、行方不明2名と土砂災害が多い年となった。

当専門委員会では、砂防技術の向上を図る観点から、頻発する土砂災害に対する取り組みや砂防業務の課題等を整理検討し、それらに基づき委員会活動を実施した。

(3) 平成29年度の活動

- a) 当専門委員会の活動状況パンフレット（平成28年版）を作成した（A3版表裏1枚）。
現地見学会、砂防講習会等で会員に配布し、当専門委員会の活動の周知を図った。
- b) 国土交通省砂防部保全課、砂防計画課幹部との意見交換会を10月19日に実施した。砂防関係業務の現状と課題について意見交換した。
- c) 第12回砂防現地見学会は、関東地方整備局利根川水系砂防事務所管内で9月22日に開催した（20社54名参加）。場所は、浅間山における火山噴火緊急減災対策の工事現場を見学するとともに本対策に関する計画・設計に関し座学により意見交換を行った。
- d) 平成28年度業務に関するエラー事例等の収集・分析資料を作成し、取りまとめを行った。品質セミナー（全国9支部）へ講師を派遣し、説明を実施した。

- e) 第8回砂防講習会を11月10日に開催した（56社、113名参加）。講師は、国土交通省砂防部浦保全課長に「これからの砂防行政について」、静岡大学防災総合センター牛山素行教授に「最近の豪雨災害から学ぶこと」、国立研究開発法人土砂管理研究グループ藤村直樹主任研究員に「九州北部災害を踏まえた流木災害の現状と展望」、国土交通省砂防部保全課国友優土砂災害対策室長と（株）熊谷組北原成郎 ICT推進室長に「砂防事業における i-Construction の取り組みと今後について」を講演頂いた。
- f) 砂防業務改善について、国土交通省技術調査課からの課題・要望への対応（共通仕様書、積算基準の見直し調査等）、砂防関係コンサルタント懇話会との意見交換会実施（1回）、砂防堰堤に関する補強・改築設計基準の統一方針（案）や研修資料の作成を行った。
- g) その他、若手技術者交流会を開催し、若手技術者の発表技術の向上を図るとともにリクルート用のパワーポイントを作成した。また、鋼製砂防構造物設計事例集の改定を行った。

2. 次年度の活動について

平成30年度は、前年度に実施した継続事項を中心に取り組むこととする。

- a) 第13回砂防現地見学会を実施する。
- b) 品質セミナーにおいて、エラー事例の収集・分析、講師派遣を行う。
- c) 第9回砂防講習会を開催する。
- d) 国土交通省砂防部との意見交換会を開催する。
- e) 平成29年度版活動パンフレットを作成する。
- f) 砂防業務改善において、補修・改築設計基準を含めた砂防設備維持管理の手引き作成の改良、研修資料改善、施工計画設計等標準報告書、若手技術者育成のための砂防若手技術者との交流会等を実施する。

（砂防・急傾斜専門委員会委員長 坂口 哲夫）